

## 第249回 鈴木流・学習環境設計10か条(その3): 率先垂範のススメ

鈴木流・学習環境設計10か条の中から、率先垂範をテーマとした3つを紹介する。  
みなさんはどう思うだろうか？

8. 今までの要素を再定義して一つだけ付け加える(変革プロセス設計)
  - 放送大学「人間情報科学とeラーニング」/ 通信教育をWebでサポート(試験的試み)/ 学習支援ウェブサイト
9. やるべきことをやる (Practice What You Preach!)
  - 教授システム学専攻の立ち上げ: 設置条件を満たす科目概要設計: ID的アプローチ
  - なぜ、教授システム学専攻? / シラバスガイドライン / シラバス(ID1) / 専攻ポータルサイトの開発①・②・③ / 科目開発(ID1) / 科目設計の目指すこと / コアコンピテンシー①・②とオプションコンピテンシー
10. 常に最先端の実験場たれ(率先垂範)
  - なぜ教授システム学専攻でSCCか?
  - 熊大SCC: 導入時のカバーストーリー / 登場人物とその関係 / SCC導入前と後の学習スタイル / 各週の学習の流れ / ユーザーインターフェース
  - 結果: 構造化&系列化設計の結果 / 学習ポートフォリオ / グループ課題の系列化

# 鈴木流・学習環境設計10箇条

- ①講義と期末試験をやめる(反転授業・学習)
- ②再利用できるものをつくる(教材シェル:LO)
- ③くすぐってその気にさせる(教えない授業)
- ④体験を次に伝える仕組みをつくる(ランチオン)
- ⑤学習者の文脈を想像する(ユースケース)
- ⑥現場で組み立てる(オーダーメイドの教育)
- ⑦手ぶらでは集めない(アクティブラーニング)
- ⑧今までの要素を再定義して一つだけ付け加える
- ⑨やるべきことをやる(Practice What You Preach!)
- ⑩常に最先端の実験場たれ(率先垂範)

出典: 鈴木克明(2015.8.22)「鈴木流・学習環境設計」熊本大学大学院教授システム学専攻同窓会主催特別イベント  
『インストラクショナル・デザインと学習環境設計』、富士通ラーニングメディア品川ラーニングセンター

# Practice What you preach!

- 「IDの原理」を自分が手掛けた 学  
習環境設計に応用：率先垂範
- Show me, don't just tell me!  
(メリルのID第一原理「例示」)

出典：鈴木克明(2015.8.22)「鈴木流・学習環境設計」熊本大学大学院教授システム学専攻同窓会主催特別イベント  
『インストラクショナル・デザインと学習環境設計』、富士通ラーニングメディア品川ラーニングセンター

放送大学 授業科目案内 大学院

人間情報科学とeラーニング(08)

主任講師  
野嶋 栄一郎 (放送大学客員教授、早稲田大学教授)  
鈴木 克明 (放送大学客員教授、熊本大学大学院教授)  
吉田 文 (放送大学客員教授、メディア製作開発センター 副所長)

放送メディア  
テレビ

放送時間(平成18年度)  
第1学期: 月曜 19:00-20:00 (放送局: NHK総合)  
第2学期: 火曜 19:00-20:00 (放送局: NHK総合)

第5回 インストラクショナルデザインとは何か  
第6回 システムのアプローチと学習心理学に基づくID  
第7回 自己管理学習を支える構造化技法と学習者制御  
第8回 e-learningにおける学習者中心設計とIDの今後

出典: 野嶋栄一郎・鈴木克明・吉田文(2006)『人間情報科学とeラーニング』放送大学教育振興会



## 第5回 インストラクショナルデザインとは何か

《目的：教育活動の効果・効率・魅力を高める》

学習者分析  
魅力



ケラー教授  
ARCSモデル



ガニエ教授  
IDの生みの親

内的・外的条件

設計＝青写真



ライゲルース教授  
グリーンブック編集

出典：野嶋栄一郎・鈴木克明・吉田文(2006)『人間情報科学とeラーニング』放送大学教育振興会



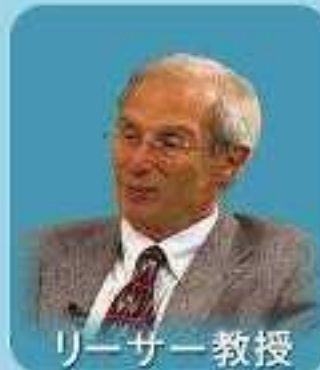
## 第6回 システム的アプローチと学習心理学に基づくID

### 《IDの歴史をたどる》

反応・学習・  
応用・結果



カークパトリック教授  
評価の4段階モデル

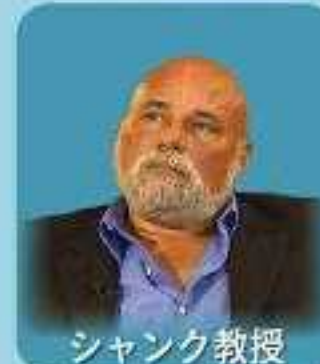


リーサー教授

IDの歴史

最新動向を自らの  
教え方にも適用する

失敗から学ぶ  
シナリオ型教材



シャンク教授

GBS理論

出典：野嶋栄一郎・鈴木克明・吉田文(2006)『人間情報科学とeラーニング』放送大学教育振興会

## 第7回 自己管理学習を支える構造化技法と学習者制御

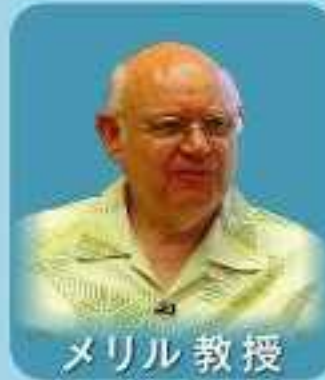
### 《構造化して系列化しないこと》

学習階層分析を  
拡大



ウェジャー教授

教授カリキュラムマップ  
(ICM)



メリル教授

画面構成理論  
(CDT)

要素を分解して  
学習者が選択

最も単純な例で  
全体像を俯瞰する



ライゲルス教授

ズームレンズモデル  
(精緻化理論)

出典：野嶋栄一郎・鈴木克明・吉田文(2006)『人間情報科学とeラーニング』放送大学教育振興会

# 第8回 e-learningにおける 学習者中心設計とIDの今後



出典：野嶋栄一郎・鈴木克明・吉田文(2006)『人間情報科学とeラーニング』放送大学教育振興会





## 第5～8回(鈴木担当分)のID的学習環境設計

《印刷教材・放送・Webサイトによる多面的eラーニング支援》

米国取材を豊富に  
生かした放送



動機づけ  
イメージづくり

予習・復習に  
役立つ印刷教材



理論の詳細・事例  
放送のまとめ

双方向のための  
Webサイト

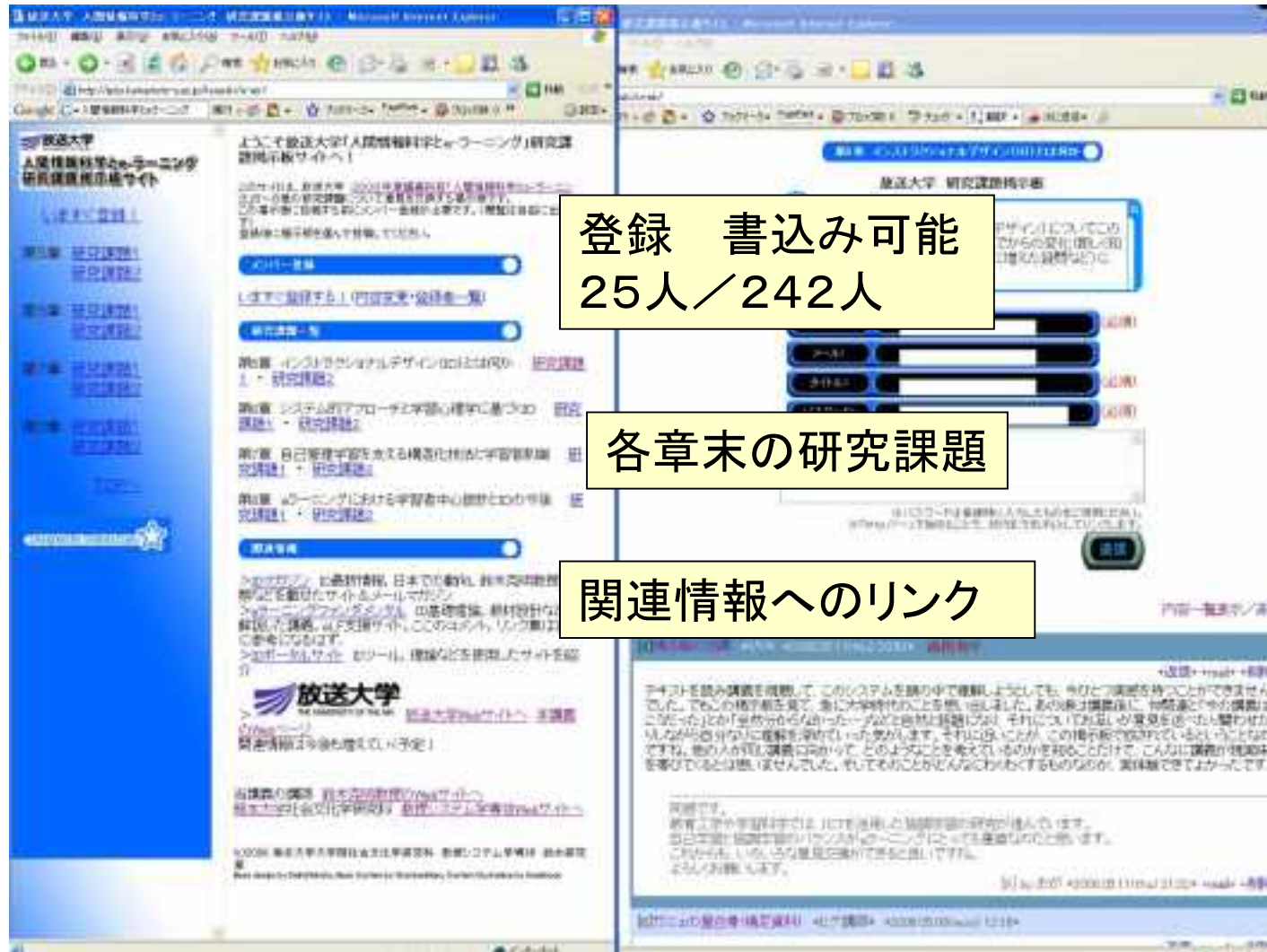


参考資料へのリンク  
確認問題・意見交換



出典：野嶋栄一郎・鈴木克明・吉田文(2006)『人間情報科学とeラーニング』放送大学教育振興会





登録 書込み可能  
25人/242人

各章末の研究課題

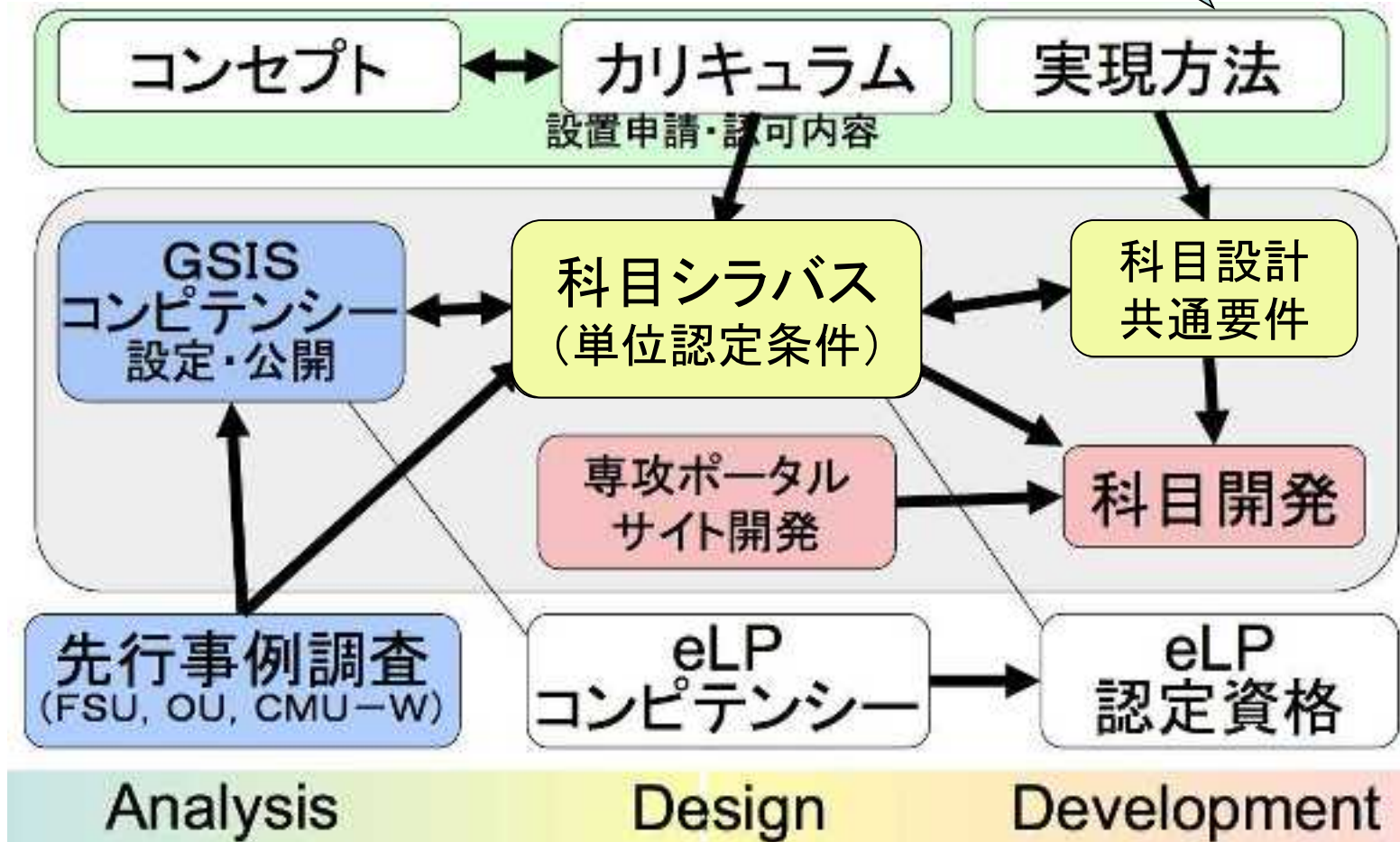
関連情報へのリンク

URL : <http://www.gsis.kumamoto-u.ac.jp/ksuzuki/u-air/>

eラーニング推進機構eラーニング授業設計支援室  
ランチョンセミナー

# 設置要件を満たす科目概要設計： ID的アプローチ

半期15回の  
双方向指導



出典：大森不二雄(編著)(2008)『IT時代の教育プロ養成戦略：日本初のeラーニング専門家養成ネット大学院の挑戦』東信堂

©2015 鈴木克明

eラーニング推進機構eラーニング授業設計支援室  
ランチョンセミナー



# なぜこの大学院を作ろうとしたか？

1. LMSを利用したコースの**実践**（開発・実施・評価）  
→全学共通情報基礎教育において**試行錯誤**により学習効果  
を高めるも、**体系的知識の必要性を痛感**
2. SOSEKIと連携でe-L全学展開→サポート体制が  
必要
  - IT面 → 総合情報基盤センター等
  - 教育面 → **教育効果を高めるにはどのような人材が必要か？**
3. **解はインストラクショナル・デザイン（ID）**  
だが、IDを学修したeラーニング専門家は日本にほとんどい  
ない  
**では、我々が育成の拠点となろう！**

出典：大森不二雄(編著)(2008)『IT時代の教育プロ養成戦略：日本初のeラーニング専門家養成ネット大学院の挑戦』東信堂



## シラバスガイドライン: 科目設計の共通要件

1. 15回の双方向性を持った学習記録を残すように仕組む(例: 小テスト・クイズ・小レポート・練習問題への回答)。
2. 成績評価は複数のレポート・作品＋学習記録(15回分)を組み合わせ、各項目で6割以上を単位取得最低条件とする。
3. レポート・作品はコンピテンシーと直結させる。
4. 学習記録(15回分)の×切は毎週設定せずに、数回分まとめ学習を可能にする。
5. 非同期科目では、日時を指定した同期型の一斉指導は半期で2回程度までに限定する(残りは非同期または個別指導)。
6. レポート・作品(または学習記録)に受講者相互の評価(改善への意見を含む)活動を取り入れる(仮提出 相互コメント 修正・本提出の基本的な流れ)。
7. 科目の導入あるいは複数の課題ごとに科目担当者によるイントロビデオを作成する(顔を見せて動機づけをする目的に限定した短編とし、情報提供は書面を基本とする)。

出典: 大森不二雄(編著)(2008)『IT時代の教育プロ養成戦略: 日本初のeラーニング専門家養成ネット大学院の挑戦』東信堂

©2015 鈴木克明

eラーニング推進機構eラーニング授業設計支援室  
ランチョンセミナー



# 「インストラクショナルデザイン」 単位認定条件(シラバスより)

- 次の課題についての累積点数で評価する。ただし、すべての課題が合格点に達していることを単位取得条件とする。  
加えて、用語等に関する小テスト(1,2,3,4,5,8,9,10,13,14回で実施 合計10回)を完了していることをも単位取得条件とする。
- [課題1]教材企画書(20点)  
教材設計マニュアルP.164の「教材企画書の書き方」に沿って作成されていること。
- [課題2]教材パッケージ(20点)  
教材設計マニュアルP.168の「7つ道具チェックリスト」の総合評価で「1. すぐに形成的評価を実施できる状態」であること。
- [課題3]教材作成報告書(30点)  
教材設計マニュアルP.170の「教材改善のための書き方」に沿って作成されていること。
- [課題4]相互評価レポート(30点:10点×3)  
上記課題に関し、他の受講者の課題を評価し、その評価が妥当であること。

出典:大森不二雄(編著)(2008)『IT時代の教育プロ養成戦略:日本初のeラーニング専門家養成ネット大学院の挑戦』東信堂

©2015 鈴木克明

eラーニング推進機構eラーニング授業設計支援室  
ランチョンセミナー



# 専攻ポータルサイトの開発 専攻ポータル+LMSをフル活用

熊大統合認証



(CAS)

専攻ポータル



(uPortal)

各授業ページ



(WebCT)

出典: 大森不二雄(編著)(2008)『IT時代の教育プロ養成戦略:日本初のeラーニング専門家養成ネット大学院の挑戦』東信堂

©2015 鈴木克明

eラーニング推進機構eラーニング授業設計支援室  
ランチョンセミナー



# 専攻ポータルサイトの開発: 履修科目プランニング

## 履修科目プランニング

- ・科目名にマウスを乗せるとその科目の履修科目に★が表示されます(マウスを離すと★は消えます)
- ・チェックボックスまたは科目名をクリックすると合計単位数が加算され、その履修科目に★が表示されます
- ・数でマスの必要単位は10単位です

1年前期	1年後期	2年前期	2年後期
<input type="checkbox"/> eラーニング概論 必	<input type="checkbox"/> インストラクショナルデザイン II 必	<input type="checkbox"/> 情報技術教育方法論 選	<input type="checkbox"/> ネットワークセキュリティ論 選
<input type="checkbox"/> インストラクショナルデザイン I 必	<input type="checkbox"/> 教育心理学 選	<input type="checkbox"/> 遠隔教育通信技術の教育利用 選	<input type="checkbox"/> コンテンツ標準化論 選
<input type="checkbox"/> 基礎的教育論 選	<input type="checkbox"/> 学習支援情報連携システム論 必	<input type="checkbox"/> ネットワークアログラミング論 選	<input type="checkbox"/> eラーニング教育概論 選
<input type="checkbox"/> 最新の情報技術論 選	<input type="checkbox"/> 教育ビジネス経営論 必	<input type="checkbox"/> eラーニングコンサルティング論 選	<input type="checkbox"/> 情報ビジネス経営論 選
<input type="checkbox"/> ネットワーク上の知的財産権及び私権 必	<input type="checkbox"/> 遠隔教育実践論 必	<input type="checkbox"/> プロジェクトマネジメント 選	<input type="checkbox"/> 情報ビジネス経営論 選
<input type="checkbox"/> 情報リテラシー教育におけるeラーニング 選	<input type="checkbox"/> 経営学特論 選	<input type="checkbox"/> eラーニング実践演習II 必	<input type="checkbox"/> 特別研究 II 必
	<input type="checkbox"/> eラーニング実践演習I 必	<input type="checkbox"/> 特別研究 II 必	<input type="checkbox"/> 外国語教育におけるeラーニング 選
	<input type="checkbox"/> 特別演習 I 必	<input type="checkbox"/> 高等教育におけるeラーニング 選	
	<input type="checkbox"/> 職業人教育訓練におけるeラーニング 選		

必 : 必須科目  
選 : 選択科目(20分間の履修を推奨するもの)  
★ : 表示されるシラバスは公開用シラバスです。  
 ※15年課程は15年度以降のシラバスから参照できます。

★ (赤字) : 単位を取得している科目  
★ (青字) : 履修中の科目  
★ (白字) : 履修前の科目

合計:  単位

**(Check!!)**  
↑  
必要条件を満たしているか確認

出典: 大森不二雄(編著)(2008)『IT時代の教育プロ養成戦略: 日本初のeラーニング専門家養成ネット大学院の挑戦』東信堂

©2015 鈴木克明

eラーニング推進機構eラーニング授業設計支援室

ラーニングWorld 2006【J-2】





# 専攻ポータルサイトの開発:学習進捗モニタ

## 教授システム学学習進捗モニタ

2006年前期受講科目 2006年7月10日19:00:29現在

科目名		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
eラーニング概論	タスク	pass	pass	受付中	受付中	受付中	受付中	受付中	受付中	受付中	受付中	受付中	受付中	受付中	受付中	受付中	
	課題	添削中	合格													受付中	
インストラクショナル・デザイン I	タスク	pass	pass	pass	pass	pass	pass	pass	pass	pass	pass	超過					
	課題	再提出要求							再提出要求								
ネットワーク上の知的財産権及び私権	タスク	pass	pass	pass	pass	pass	pass	pass	pass	pass	pass	pass		受付中	受付中	受付中	
	課題	添削中			添削中						合格						
基礎的情報処理論	タスク	pass	pass	pass	pass	pass	受付中	受付中	受付中	受付中	受付中	受付中	受付中	受付中	受付中	受付中	
	課題	pass					合格										
基礎的教育論	タスク	pass	pass	pass	pass	pass	pass	pass	pass	pass	受付中	受付中	受付中	受付中			
	課題	pass															
オリエンテーション	タスク	pass	pass	pass	pass	pass	超過	超過									
	課題																

   : 受付前     
    : 受付中     
    : 添削中     
 pass : 合格  
   : /切1週間前     
 超過 : /切超過     
    : 再提出要求

\*添削中、再提出要求、合格の表示は平日の月～金曜日の13時に反映されます。

出典: 大森不二雄(編著)(2008)『IT時代の教育プロ養成戦略:日本初のeラーニング専門家養成ネット大学院の挑戦』東信堂

©2015 鈴木克明

eラーニング推進機構eラーニング授業設計支援室  
ランチョンセミナー





# 「インストラクショナルデザイン I」



・「教材設計マニュアル」をもとにIDの基本を学習

・eラーニングに進む前に「プリント教材」でIDのノウハウを確実に身につけられる

・課題になかなかオーケーがでない科目

出典：大森不二雄(編著)(2008)『IT時代の教育プロ養成戦略：日本初のeラーニング専門家養成ネット大学院の挑戦』東信堂

©2015 鈴木克明

eラーニング推進機構eラーニング授業設計支援室  
ランチンセミナー



# 科目設計の目指すこと

- インターネット型大学院の科目設計には、  
通学型と同じ形を求めるのではなく、  
新しい時代の学習環境の創造を目指す  
姿勢で。
- キーワードは、  
アンドラゴジーに基づく自律協調型、可  
能な限り非同期環境で！

出典：大森不二雄(編著)(2008)『IT時代の教育プロ養成戦略：日本初のeラーニング専門家養成ネット大学院の挑戦』東信堂

©2015 鈴木克明

eラーニング推進機構eラーニング授業設計支援室  
ランチオンセミナー



## コア: 必修科目の単位を取得することで 身につくコンピテンシー (1-6)

本専攻を修了すると、次のコンピテンシーの基礎が身につきます。

1. 教育・研修の現状を分析し、教授システム学の基礎的知見に照らし合わせて課題を抽出できる。
2. さまざまな分野・領域におけるさまざまな形のeラーニング成功事例や失敗事例を紹介・解説できる。
3. コース開発計画書を作成し、ステークホルダごとの着眼点に即した説得力ある提案を行うことができる。
4. LMSなどの機能を活かして効果・効率・魅力を兼ね備えた学習コンテンツが設計できる。
5. Webブラウザ上で実行可能なプログラミング言語による動的な教材のプロトタイプが開発できる。
6. 開発チームのリーダーとして、コース開発プロジェクトを遂行できる。

出典: 大森不二雄(編著)(2008)『IT時代の教育プロ養成戦略: 日本初のeラーニング専門家養成ネット大学院の挑戦』東信堂

©2015 鈴木克明

eラーニング推進機構eラーニング授業設計支援室  
ランチョンセミナー



## コア: 必修科目の単位を取得することで 身につくコンピテンシー (7-12)

本専攻を修了すると、次のコンピテンシーの基礎が身につきます。

7. 実施したプロジェクトや開発したコースを評価し、改善のための知見をまとめることができる。
8. 人事戦略やマーケットニーズに基づいて教育サービス・教育ビジネスの戦略を提案できる。
9. ネットワーク利用に関わる法律的・倫理的な問題を認識し、解決できる。
10. 教授システム学の最新動向を把握し、専門家としての業務に応用できる。
11. 実践から得られた成果を学会や業界団体等を通じて普及し、社会に貢献できる。
12. 教授システム学専攻の同窓生として、専門性を生かして専攻の発展・向上に寄与できる。

出典: 大森不二雄(編著)(2008)『IT時代の教育プロ養成戦略: 日本初のeラーニング専門家養成ネット大学院の挑戦』東信堂

©2015 鈴木克明

eラーニング推進機構eラーニング授業設計支援室  
ランチオンセミナー



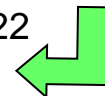
## オプション: 選択科目の単位を取得することで身につくコンピテンシ

1. eラーニングサーバの導入、構築、管理、運営が行え、サーバサイドアプリケーションを用いた動的な教材のプロトタイプが開発できる。
2. コンテンツの標準化や相互運用性の要件を満たしたeラーニングコース開発やシステム運用ができる。
3. ネットワークセキュリティ上、安全なeラーニング環境を構築できる。
4. 知識・情報・学習の視点から経営課題について提言ができる。
5. eラーニングの特定応用分野について、その領域独自の特徴を踏まえて内容の専門家と協議できる。
6. コンサルティングの視点から、教育サービス・教育ビジネスのプロジェクト内容を提案でき、その実施をサポートできる。
7. 所属機関・顧客機関等のeラーニングポリシーの確立・改善・変革を提案できる。

出典: 大森不二雄(編著)(2008)『IT時代の教育プロ養成戦略: 日本初のeラーニング専門家養成ネット大学院の挑戦』東信堂

©2015 鈴木克明

eラーニング推進機構eラーニング授業設計支援室  
ランチョンセミナー



# なぜ熊大教授システム学専攻でSCCか？

## 熊大教授システム学のミッション

eラーニング専門家をeラーニングで養成する


### SCCの導入

- ・より高い実践力と理論的知識の血肉化
- ・eラーニングにおける教授方法の全般的な改善

出典：根本淳子・鈴木克明(2014)(編著)『ストーリー中心型カリキュラム(SCC)の理論と実践:オンライン大学院の挑戦とその波及効果』東信堂



# 1年前期導入時のカバーストーリー

- 
- あなたは、2008年4月に、Meet-The-Mind社 (MTM) にeラーニング・システムの企画・設計者として入社しました。
  - MTM社に入社する以前は、3年間中規模ソフトウェア開発企業の総務に所属していましたが、教育関係の担当をするうちに教育の専門家として今後活動していきたいと思いMTM社を選びました。

出典：根本淳子・鈴木克明(2014)(編著)『ストーリー中心型カリキュラム(SCC)の理論と実践:オンライン大学院の挑戦とその波及効果』東信堂

©2015 鈴木克明

eラーニング推進機構eラーニング授業設計支援室  
ランチョンセミナー





# 登場人物とその関係



## 【1年前期で与えられる“ミッション”】

1. MTM社のeラーニングコンテンツスタンダードを作成する
2. MTM社eラーニングコンテンツのビジネスプランを策定する
3. MTM社 事業戦略 提案書ドラフトを作成する

出典：根本淳子・鈴木克明(2014)(編著)『ストーリー中心型カリキュラム(SCC)の理論と実践:オンライン大学院の挑戦とその波及効果』東信堂

©2015 鈴木克明

eラーニング推進機構eラーニング授業設計支援室  
ランチオンセミナー

# SCC導入以前の学習スタイル

The image shows a screenshot of the Kumamoto University portal. The main content is a course schedule table for the 2008 academic year. The table has columns for course numbers (1-7) and rows for various subjects. A red arrow points from the '統合認証' (Integrated Authentication) callout to the top of the table. A blue callout box labeled '科目のWebCTコンテンツ' (Course WebCT Contents) points to a specific row in the table. A pink callout box labeled '各科目の並行履修' (Parallel Enrollment in Each Course) points to the first column of the table. A red arrow at the bottom of the table points to the right.

統合認証

科目のWebCTコンテンツ

各科目の並行履修

科目名	1	2	3	4	5	6	7
...	...	...	...	...	...	...	...

出典：根本淳子・鈴木克明(2014)(編著)『ストーリー中心型カリキュラム(SCC)の理論と実践:オンライン大学院の挑戦とその波及効果』東信堂

©2015 鈴木克明

eラーニング推進機構eラーニング授業設計支援室  
ランチョンセミナー

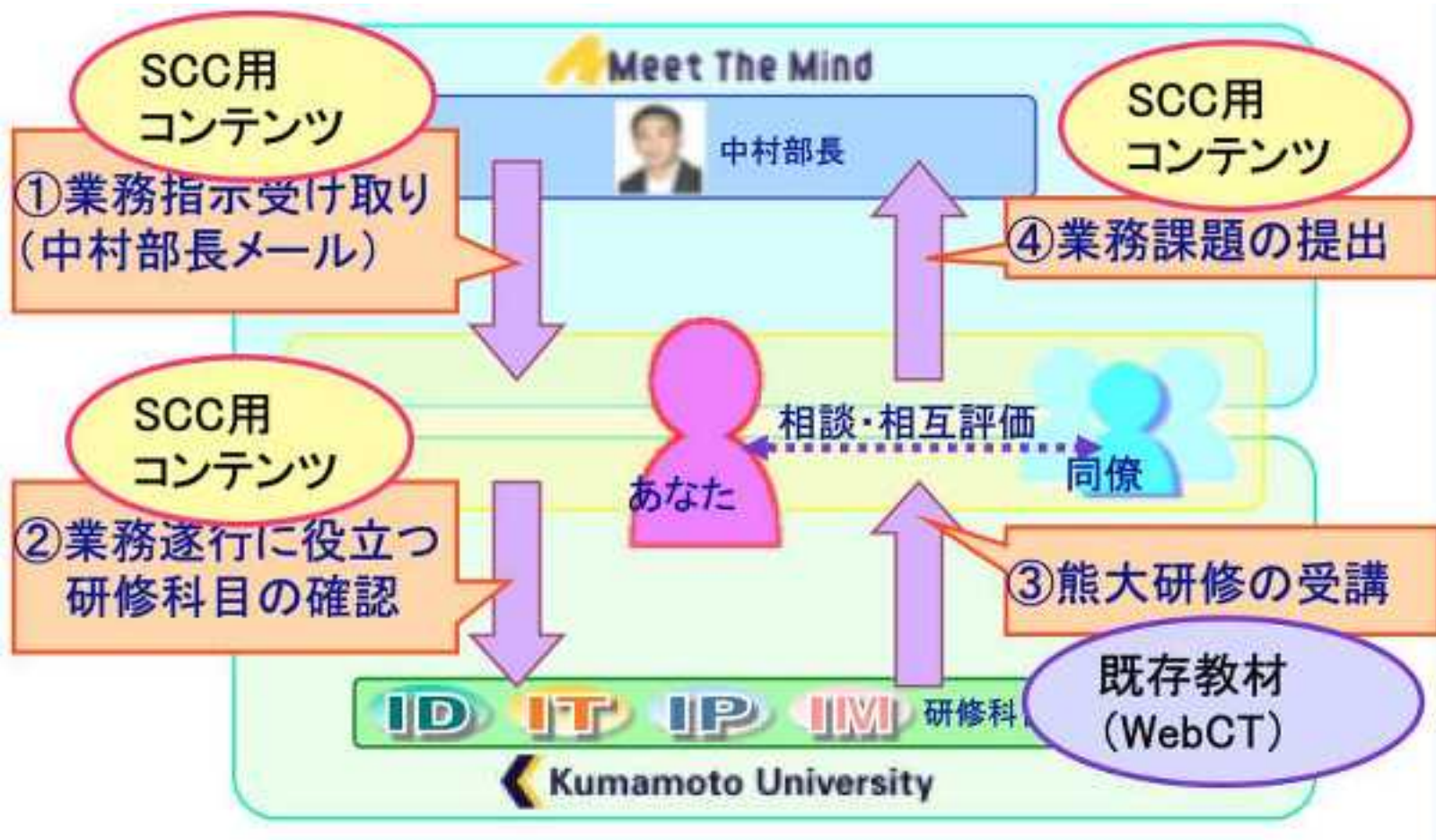
# SCC化後の学習スタイル



出典：根本淳子・鈴木克明(2014)(編著)『ストーリー中心型カリキュラム(SCC)の理論と実践:オンライン大学院の挑戦とその波及効果』東信堂



# 各週における学習者の学習の流れ



出典: 根本淳子・鈴木克明(2014)(編著)『ストーリー中心型カリキュラム(SCC)の理論と実践:オンライン大学院の挑戦とその波及効果』東信堂



# SCCコンテンツのための追加「スキン」

業務内容を確認する > タスクに取り組む > 課題を提出する

学習の流れを形成する  
ナビ用のタブ  
業務内容を確認する  
タスクに取り組む  
課題を提出する

中村部長からの指示として  
配信されるメールのリスト

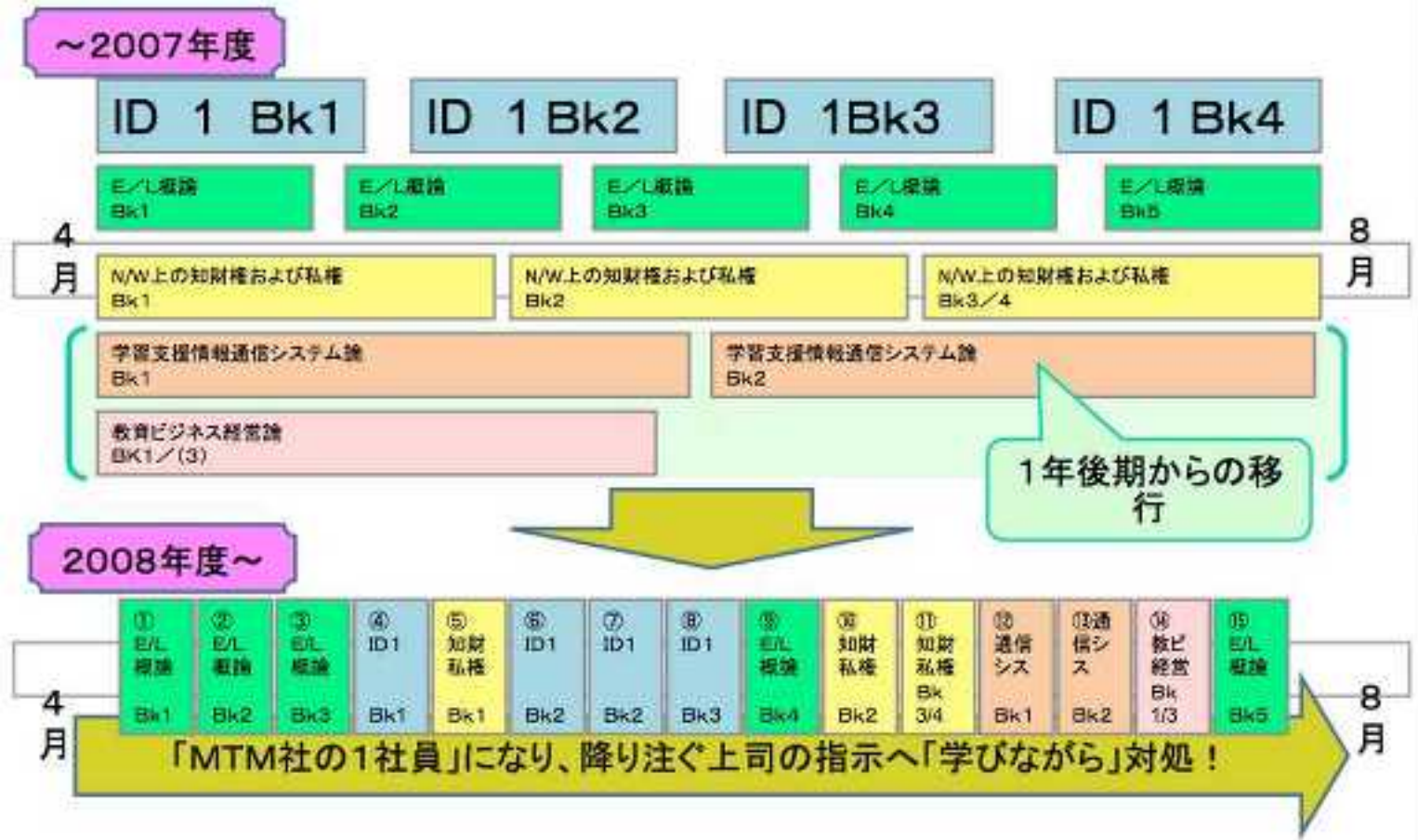
中村部長  
からの  
メール本文

出典：根本淳子・鈴木克明(2014)(編著)『ストーリー中心型カリキュラム(SCC)の理論と実践:オンライン大学院の挑戦とその波及効果』東信堂



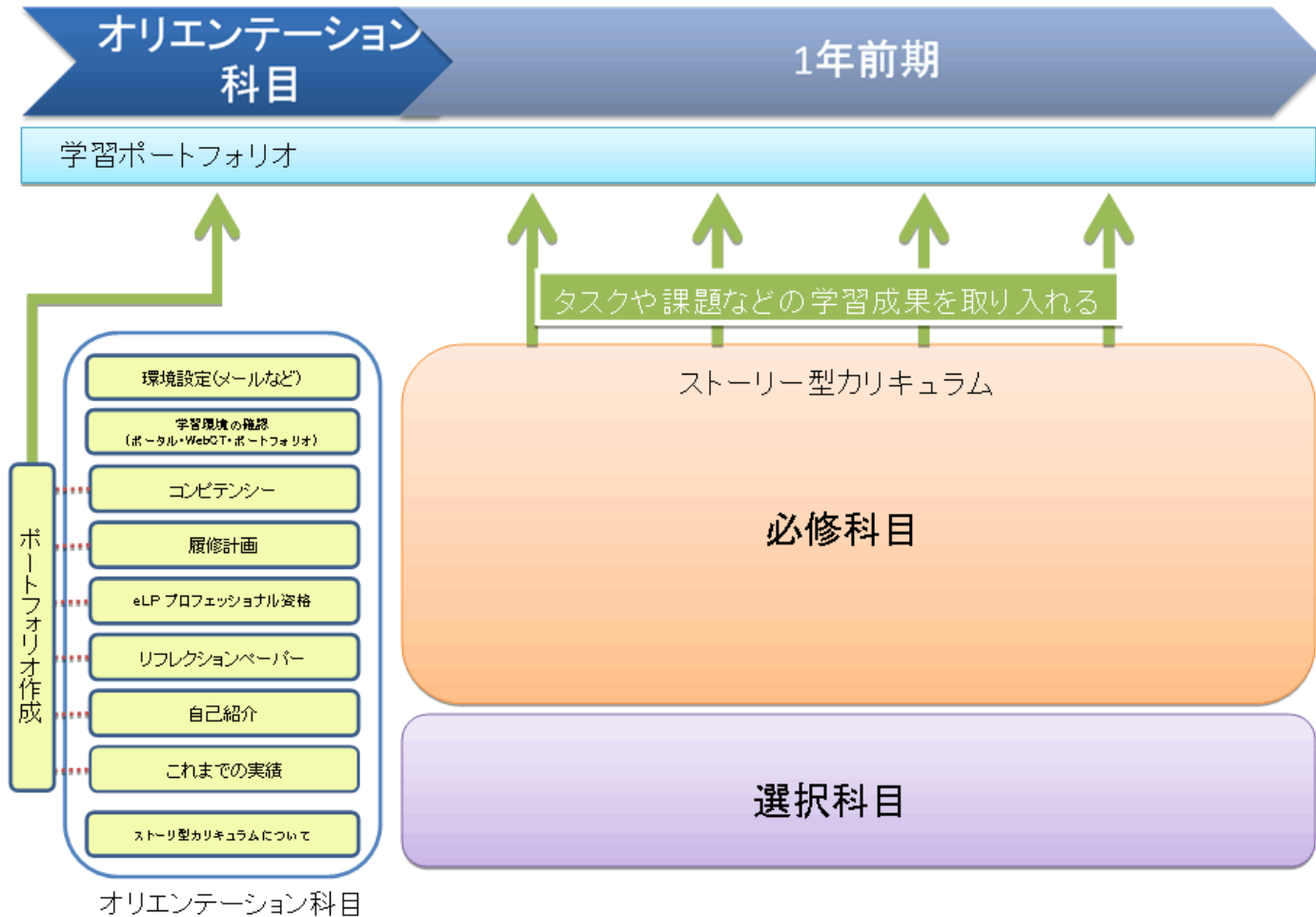
# 構造化 & 系列化設計の結果

～ 1年前期の科目構成の組替え～



出典：根本淳子・鈴木克明(2014)(編著)『ストーリー中心型カリキュラム(SCC)の理論と実践:オンライン大学院の挑戦とその波及効果』東信堂

# 学習ポートフォリオ設計



# グループ課題の系列化

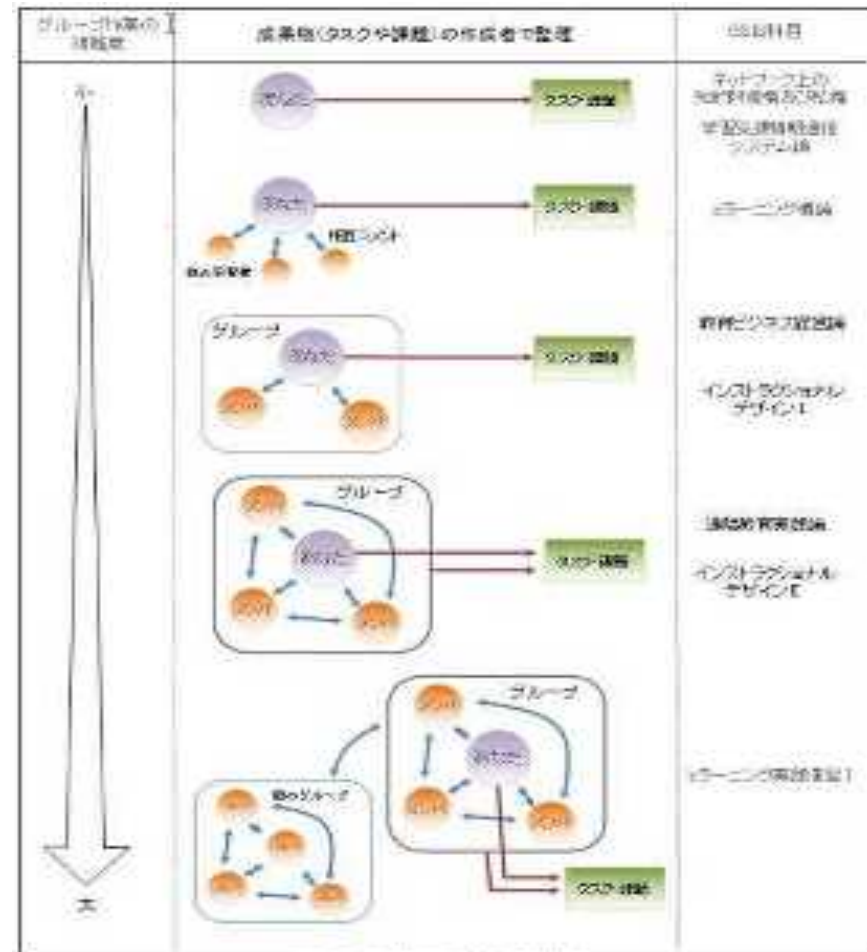


図3 グループ活動の系列化

出典: 鈴木克明・根本淳子・竹岡篤永・高橋暁子・柴田喜幸(2013.10.12-13)「オンライン大学院におけるグループ課題の系列化」日本教育メディア学会第20回年次大会(和歌山大学)発表論文集:51-52

